

No.5

2000. 12. 1

地球の木

地球上のすべての人たちと共に生きたい

■発行 特定非営利活動法人
地球の木 理事会
■発行責任 横川芳江
■編集 広報部
■事務局 〒222-0033
横浜市港北区新横浜2-8-4
TEL 045-471-5536
FAX 045-471-5543
E-Mail:CZR10753@nifty.ne.jp

CONTENTS

- 小さな力を合わせて大きな力に
- ニルマラさん・シュレスタさんにインタビュー
- 参加者の心に触れた地域フォーラム
- 支援地からく今年の天候と収穫
- カンボジア訪問記
- 開発はだれのため?
- ようこそ地球の木へ! 海外NGOの来訪



サリー姿の筆者

小さな力を合わせて大きな力に

理事 嶋 一枝

秋 晴れの神社の境内で時ならぬ盆踊り、あつあつのいも汁鍋、ハーブティにハーブサラダ。集まつたのは42人。ネパールからニルマラさんとシュレスタさんを迎えて、湘南の人たちと友情を深めました。笑顔の人、感涙にむせぶ人、歓談する人。どの顔も理解し合って心が一つになっていました。湘南・西湘・三浦の地域フォーラム「識字教室がもたらしたもの」はスタッフひとりひとりが楽しみながら、熱い心でそれぞれの個性を發揮して全員でつくり上げたものでした。午前中は講演会、午後が交流会・園見学と盛りだくさんの一日でした。

私 達は5ヶ月前から準備にかかり、まず地域に広く呼びかけました。じゃお湘南は昼食作りを担当、庭仕事クラブはさっそくレタスの種をまき、畑クラブは農園の資料づくり、リサイクルショップは店をあげての歓迎準備という風で、ワーカーズコレクティブ麦の穂、永田農園、Fapa湘南も協力してくださることになりました。昨年から数回開催してきた出前講座「見て着て食べようネパール」でタルーの村のこと、識字教室によって自立の一歩を踏み出した女性たちのことなど親しんできていましたので、自然に歓迎ムードはできていました。そしてミーティングするたびにこの計画は育っていました。夢がふくらんでいきました。

二 ルマラさんとシュレスタ教授は意識改革プログラムを始めた時、自転車で村々を回って、ていねいに忍耐強く語りかけたそうです。まず相手を理解して、

次に自分のやろうとしていることを理解してもらうことから始めたそうです。私達も同じでした。どんなに小さなことでも話し合いながら納得し、合意して意識を高めて、自分のできることを分担していくところが同じプロセスだと思いました。識字教室と地域フォーラムは共通点が多いと気づきました。スタッフの参加度も高く、活発に話し合いがすすみ、でも和気あいあいで事が進んでいく、あの原動力は何だったのだろうか。お二人の話に「ネパールの人は、人の役に立つことが幸せだと思っています」とありますが、実は私達も「タルーの村の人々の役に立ちたい」と思っていることで一致していたのです。

ひ とりひとりの小さな力を合わせると大きな力になることを実感しました。識字教室が女達を、村を変えていっているのも、元は、意識に目覚めた小さな力がひとつになったからなのです。ネパールの小さな村でも日本の地域でも、社会を変えていくには同じプロセスをたどるのだとわかりました。この経験をこれから私たちの地域活動に役立てます。



来日したニルマラさんと…

あなたの地域でもやってみませんか?
きっとできますよ。

ニルマラさん シュレスタさん にインタビュー

ネパールチーム 乳井京子



ネパール極西部自立支援プロジェクトが始まってから4年。私たちは現地とのやりとり、調査・スタディーツアーなどを通じてニルマラさん、シュレスタさんやSOARSの仲間たち、村の人々から言葉には尽くせないほど貴重な贈り物をたくさんもらっていました。「一人でも多くの方にネパールの仲間たちと直接会って触れてほしい!」という願いが実現し、現地責任者のお二人を日本にお招きすることができました。10月29日から11月1日の4日間、よこはま国際協力まつりのシンポジウム「21世紀のパートナーシップ～地域からの発信～横浜からできること」を皮切りに横浜市青葉区、茅ヶ崎市、相模原市で3つの地域フォーラムが開催されました。それでは、お二人の生の声を聞いてみましょう。

Q ニルマラさんは、14歳の頃から、近くの低カーストの子ども達に読み書きを教え始め、以来、識字教育に携わっていますが、教育の原点は何だと思いますか?

ニルマラさん 私の主な仕事は、村の人々が自分たちのもっている潜在能力に気づくのを助けることです。そして、一人一人は小さな力でも、みんなで力を合わせれば、大きな力になることを教えます。教育を受けて自信をもった人々はグループを作り、協力して意欲的に村の発展に寄与します。

Q シンポジウムでは、ニルマラさんがパネリストとして参加して、グローバリゼーションに対してピープリゼーション(peoplization)、即ち、与えられた開発ではなく、人々が主体となって地域から開発を行っていくことの重要性を強調していました。シュレスタさんは、会場で聞いていらしてどのような感想をおもちになりましたか?

シュレスタ教授 「21世紀のパートナーシップ」は、ミレニアムにふさわしいとてもタイムリーナ命題だと思います。20世紀に人類

は環境を破壊し、暴力、薬物、HIVが世界に蔓延しました。人口はかつてない速さで増加し、貧富の差はますます拡大しています。21世紀はすべての人にやさしい、より公正な世紀でなければなりません。これを実現するのは国家ではなく、市民の力です。名もない平凡な人々が、非凡なことをやってのけるのです。

パネリストのソン神父が言っていましたね。「自分の足元を見つめることが大切だ」と。そのとおりだと思います。自分を知ることはすべての始まりです。

本当にすばらしいシンポジウムで、とても感動しました。この感動を横浜で終わらせるのはあまりにも、もったいない! 地球の木スタディーツアーの皆さんのがネパールにいらした時に、一緒にシンポジウム(パート2)を開きましょう。学んだことは伝えていかねばなりません。世界に広げていきましょう!

Q ニルマラさん、各地でフォーラムに参加なさって、どのような印象をうけられましたか?

ニルマラさん 地域で地球の木の会員の方々だけでなく、いろいろなグループの方々とも触れ合い、本当にたくさんのことを学ぶことができました。みなさんが日頃互いに連携して活動していらっしゃることを知ることができ、このすばらしい機会を与えて

くださったことを感謝します。また、皆さんの感性と熱い思いにとても心を打たれ、私たちも見習いたいと思いました。

ただ、皆さん本当に忙しいのですね。私はとても日本では暮らしていけないと思いました。ネパールでは、時の流れがずっとゆったりしています。みんなのんびりしています。日本では、体はここにあっても、心はここにない、もう次のことを考えているといった光景にしばしば出会いました。私は開発の仕事に携わりながら、いつも「開発は本当に村の人々のためになるのだろうか?もし、開発によって伝統や家族の絆を失うのだったら、開発しない方がいいのではないか?」というジレンマと戦っています。近代化して経済的に豊かで便利になっても、心は満たされないので、と近代化の行き着く先に危惧を覚えました。

私たち、お二人の招聘に先立ち、何度も話し合いました。その中で「日本のマイナス面も見ていただいた方がいいから、ごみ焼却所にお連れしたらどうか?」という意見がでていたのですが、焼却所に行くまでもなく、どの家にも物があふれている現実を見ただけで充分だったようでした。見慣れた日常の中の不条理にもっと厳しい目を向け、「共に生きる社会」をつくっていくために更なる一步を踏み出さねばと心に刻みました。

●参加者の心に触れた地域フォーラム●

次の世代に 私たちが残せるものは?

ニルマラさんは自分の知識を教育を受けられない人々に惜しげもなく与え、学校まで作り上げてしまう有言実行女性として実に輝いている人だと思いました。

又、五色塾の小川先生は心からの思いやりで「人が育つ」教育をされています。お話を聞いて、私自身も中・高生を持つ母親として、今、日本の教育のあり方を考えいかなければならない、「安定した心」で子どもたちが生活できる環境作りをしていきたいと感じました。

(森永恵理子)

教育は何のため?

ネパールの識字率の低さや、「自分が何者であるか」を認識する事もできない女性たちの厳しい状況を知り、あらためて教育の大切さを知った。ニルマラさんが何度もおっしゃっていた「自分や家族の事だけでなく、広い視野に立って、同じ一人の人間としてこの問題を分かち合い、小さな事からスタートしてみてください。その人自身にも得る物がかなりあります」は意味深かった。

教育があるはずの私たちの社会は、いったいどのような幸せを求めているのだろう。今日食べる物にも事欠く貧しさではないのに、心が貧しく、うつろになっていて「幸せ」の本質を求める未来が見えてこない。「どうすれば幸せになれるかを考える」その為に教育が必要であるという、シュレスタさんの一見あたりまえの言葉が逆に胸に深く突き刺さった。(豊田加代子)



●参加者の心に触れた地域フォーラム●

忙しく、物に囲まれた 私たちは幸せ?

フォーラムに参画させていただき、ネパールのお話を伺う事ができ、貴重な経験でした。貧しくともゆったりと時が流れる地から来られて、お二人は全てが忙しく動く日本を羨ましく思って帰られたのでしょうか?物質文明にどっぷりと浸かってはや抜け出せない日本人と彼らと果たしてどちらが幸せなのでしょうか?考えさせられました。じゃおクラブも国際交流を模索し始めています。

(じゃお湘南 山本健介)



*ニルマラさん、シュレスタさん招聘プログラムの記録を作成しました。ご希望の方は事務局まで

支援地から

●●今年の天候と収穫●●

ラオスから

深刻な森林伐採

JVCの現地からの報告によると、今年はラオスでも中・南部のメコン河流域を中心に洪水に見舞われ、被害が大きかったカムアン県は水田の45%が冠水したと言われている。JVCの重点村であるニヨンマラート郡ピートシーカイ村でも村の水田の140ha中80haが冠水し、16家族については全滅という状態である。また、ニヨンマラート郡とマハワイ郡では冠水しなかった水田でも芋虫による被害が数多くでている。それでも農民は3年から4年に一度はある洪水に慣れているのか、魚獲りに従事し子どもたちは水浴ではしゃぎ、洪水に打ちひしがれた人達というより、洪水を含めた自然と長年付き合ってきた人達の悠々とした姿にも見える。

今回の洪水は台風の大雨がもたらしたもので、特に北部の大雨がメコン河を増水させたと言われている。北部は森林率の低い地域であり、山林の保水力の低下が河川の増水につながったと考えられる。しかし今夏の森林局の会議では、さらに森林伐採の規制緩和の法改正が審議されている。昨年まとめられた国内の森林率も、その低さに公表がひかえられたと言われている。また農林省は今回の洪水を契機に、洪水の影響を受けにくい乾季作の奨励にさらに拍車をかけることになる。それは灌漑の普及、農薬、化学肥料の普及を伴った外からの資金と技術の導入であり、農民の借金の増大や自然環境の悪化などが懸念される。

(JVCカムアン事務局 三好 陽)

カンボジアから

コリヤ洪水だ！

8月下旬私がカンボジアを訪問した時に飛行機から見えた地上の景色は、田んぼなのかよく分からず「コリヤ洪水だよ」と思いました。赤茶色の道路とその周りに木立に囲まれて立つ家々は、周りを水に囲まれて何とか冠水を免れているという状況でした。しかし、出会った人々には、危機感もなくシュミリアップでは、川からあふれた水が家の下を満たしそこで子どもがゴムの大きな浮き輪につかまって遊んでいました。さらにまた雨が降り洪水の被害は、大変なものとなりました。状況はブノンペンで行われたアセアン農業大臣会議での農水省発表によると、稲作被害は作付け全体の19%（被害総額\$55,153,538）のようです。

支援先の子どもたちの施設のある、るしなの農場（田は1ha）は、洪水被害を免れていますが、野ねずみの大量発生で稲穂を食べられ被害が出ています。収穫時期の12月までどの程度の収量になるかわかりません。また、るしなの農場のある村の被害は250haの雨季作米の大部分が枯死してしまい壊滅状況だそうです。

もう一つの支援先、JVCの2つの集合村は農村担当ナリン氏によると、「天候不順のため稲の成育はよくない。JVCのプロジェクト地は比較的高い土地であるので、洪水のためではなく干ばつの被害である。干ばつで生育が良くなかったところに、短期間の冠水があったために被害を受けた稲もあるが、さほど多くない」とのことです。

安く大量に輸入している材木や、その加工品、先進国に偏るエネルギー消費が、森林伐採や気候変動を招いていると肝に銘じながら、私たちは、支援先の情報を冷静に受け止め、開かれた扉から私たちなりの行動を起こし、継続したつながりを現地NGOや村の人達と持つことが大切だと思います。

(ほくぶ 小泉恵子)

ネパールから

豊作が必ずしも朗報にならない？

「ネパールの今年の天候はおおむね良好です。全国的に充分な収穫が予想されます」とは、来日中のニルマラさんからの生の情報。ところが、当然お隣のインドも豊作で、安価な農作物が国境を越えて来ることも必至です。

支援地の極西部では、地主に隸属的に働いていた「カマイヤ」と呼ばれる農業労働者たちが今年7月、政府により解放されました。これに反発した地主たちは、カマイヤの代りにインドから安い労働力を得、カマイヤがいなくても充分収穫をあげられることを証明するため、収穫高を上乗せして報告することが予想されます。住む場所も仕事もなくしたカマイヤの問題は深刻です。

極西部カイラリ郡の識字教室は、9月にミーティングで実施村と先生、参加者を決定。他のプロジェクトと共に、お祭りの終わる11月にはスタートの予定です。今年は識字教室のプロジェクトに（財）横浜市国際交流協会（YOKE）の助成を受けています。ミシン教室も再開されます。コミュニティーセンターの建設は、あと屋根を残すのみとなりました。「一つひとつ村人で決めていくのには時間がかかるので、忍耐強く待っていて下さい」とはニルマラさんの言葉です。

(ネパール・チーム 丸谷士都子)

フィリピンから

サトウキビの収穫でにぎわうネグロス

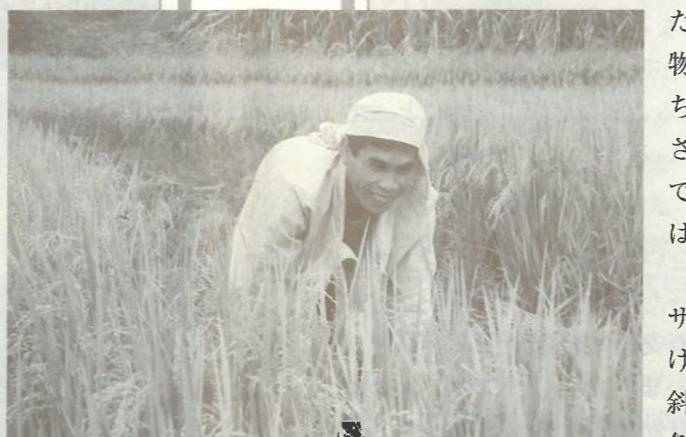
2000年11月。ネグロス各地で砂糖きびの収穫が一斉に始まった。この時期、主要道路は昼夜、サトウキビを満載した大型トラックが行き交い、砂糖産業で成り立つネグロスでは、年に一度の好景気になる。

今年は当初心配されていたラ・ニーニャによる大洪水にも見まわれず、砂糖も米もほぼ例年通りの収穫が予想される。

一年を通じて、ネグロスの気候は大きく雨季（5月後半～10月）と乾季（11月～5月）に分かれる。かんがい農地は全農耕地のわずか30%しか完備していないため、米作農家の多くは雨水に頼っている。最近農民がよくこぼす愚痴は、「昔は5月の第4週に種をまけば、順調に種は育ったが、近頃は雨季の始まりが不安定で、予定通りに行事も進まない…」雨を期待していても、日照りでせっかく芽を出した稻が枯れてしまったり、逆に大雨が続いている水没したり…とこうした問題はここ数年毎年のように聞く。作物の被害は水

だけではない。乾季の水田は毎年ネズミによる被害に見まわれる。雨季に比べて作物が少ないため、ネズミの食物が足りなくなってしまって、稻を荒らす。州の農業指導員たちでさえ、適切な対応策が見つけられず、稻作農家の頭痛の種だ。ネグロスでは水さえあれば年3回、米を収穫できる。10月末からツプラン農場やPAP21地域の水田で二期作目の米の収穫が始まった。ちょうど雨季の雨に恵まれたから、二期作まではどこも順調に収穫できたようだ。

これから11月に入り、乾季を迎える。1月まではからつ風が吹き荒れ、涼しいがザラザラ乾いた毎日が続く。2月ごろから気温がジワジワ上昇し、3月から4月にかけて、「サマー」とよばれる暑い夏がやってくる。12月頃までは砂糖きび畠も山の斜面を切り開いた畠も水田も緑豊かだが、3月からの乾季にはネグロスの風景は茶色に変色してしまう。雨季のエネルギーをどう乾季につなげるか、ネグロスで持続的農業する上で最も重要な挑戦のひとつだ。（JCNネグロス現地駐在員 大橋成子）



PAP21地域のひとつ、シアソンの米の収穫。
3年前から自分たちで水田を拓いた。今年は昨年の
ツプラン研修生5名が米の有機栽培に挑戦している。

カンボジア訪問記

村のさまざまな課題とその解決方法



* 夏の盛りの8月22日から31日まで、新しく始まったプロジェクト
るしなの孤児のための生活支援施設「チャーロッコウプルダイ」
の視察と調査に行ってきました。私にとっては、2度目のカンボジア訪問でした。

カンボジアは雨季で、美しい緑と濁った水の中に9年前とあまり変わらずに、
しかし、何か始まりそうな喧噪に満ちた、エネルギッシュな顔を見せていました。

今回は、女性たちのことを中心に報告いたします。

ほくぶ 小泉 恵子

元気なるしなの女性スタッフたち

マネージャーのアリーは、るしな代表の松本氏の妻で、保健、マイノリティ・女性部会とストリートチルドレンの担当をしています。熱心に人の話を聞き、すぐ行動を起こすためのアイデアを考え、バイクに乗ってどこへでも飛んでいくパワフルな女性です。子どもたちをやさしく指導している40代後半のサレッは、村の中で弱い立場にいる人に、どのような支援をすれば力がつけることができるのか、どのような問題があるのかなどを探り、解決するために積極的に村人の中に入り、協力しています。また、女性部会の60人規模のミーティングの司会を務めたソカーは、とてもきびきびと会を進行させていました。

何でも話し合い

その女性部会には、いろいろな村から、乳飲み子を抱えた女性から50代の女性まで、また老人や村の世話役のような男性など大勢が集まりました。最初に、その日の議題をCCN(コミュニティ協同組合ネットワーク)のスタッフが説明し、リーダーの紹介のあと、各女性部会の報告が行われました。おもに、貸付と貯蓄の成果と返済の状況、利子の集まり具合などの報告です。そしてそのあと、全体を5つのグループに分けて、それぞれの抱えている問題を出し合い、模造紙に書き込んでいきます。私の入ったグループでは、緑豆に虫が出て収穫できなかった。鶏が病気で死んだ。寡婦は、

収入が少なく生活が苦しい。家族の中で病人が出ると生活が大変になる。衛生状態が悪い。100世帯にトイレがあるのは、4世帯で、井戸も1本しかない等が出されました。このあと、各グループから出た課題を一つひとつどうしたら良いか、お昼をはさんで延々と皆で対策を話し合いました。

るしなの助言も

その中で、「るしなは自分たちで現金収入を得るために商売を始めろと言うが、皆が同じことを始めるどれもだめになるのではないか?」との質問に対し松本氏は、「若干の収入増をそれぞれが持つことは、病人が出たり、収穫が少なかつたりした時の危機管理対策になる。皆が同じビジネスをする必要はない」と話されました。また、豚の病気に関する質問に対して、るしな農場から適切な助言がありました。

私たちも意見を求められ

稼ぎ手である男たちが、酒や、ばくち、外に女人を作るなどの行為をすることに対し、私たちは意見を求められました。「いつの時代でも、どこの地域でも後を立たない行為と思うが、女性が力を持つこと、また、被^{ふく}を被る者同志が手を繋ぐことが大切ではないか」と答えました。さらに、ここカンボジアでも家庭内暴力が先進国ほどではないが、問題になっていることが話題になりました。しかし仏教の信仰が厚いこと、協同組合的つな

がりがまだ濃厚であることなどが、女性にとって解決の糸口になっているとのことでした。

自立と信頼

このような話し合いの中から、さまざまな課題の解決方法を自分たちで見出していくことが、いつまでも外からの支援に頼らず、人々が自立していく道だと思いました。CCNやるしなは、相談機能を持ち、有効な助言をする立場でいることで村人たちの信頼を得ているのだなと実感しました。

*るしな・こみゅにけーしょん・やぼねしあ 松本清嗣氏の作ったNGO



5つのグループに分かれて課題を出し合う

開発はだれのため？

横川芳江

地球の木の支援先である るしな から洪水のメールが入ったのは8月はじめだった。<古都・ウドン付近から5号線沿いにトンレサップ川を見て驚愕。ものすごい水位。カンボジアでは、雨季の最盛期・最増水期は9月から10月にかけて。それが、8月も始まったばかりのこの時期にすでにこの水位までできているとは>

9月のメール<…すでに道路の決壊、畑作の被害が出ている。…各地で漁民の家が水没。今後もこの水位上昇が続くと、緊急援助が必要な事態になると予想される>

今の後9月10月にかけて、カンボジア、ラオス、タイ、ベトナムでは、100年に一度といわれる大規模な洪水が発生した。各国で緊急事態宣言が出され、国際機関の救助が続いているが、なお数十万人が被災している。デング熱、結核、コレラなどが蔓延。生活物資の値上げや、農作地の冠水、工場の閉鎖など社会不安が高まっている。

今回の洪水を引き起こしたメコン河は中国のチベット高原を源流とし、中国雲南省、ビルマ、タイ、ラオス、カンボジア、ベトナムの6ヶ国を通り南シナ海へ注ぐ国際河川である。全長約4,500km、多くの支流と自然のダムの機能をするトンレサップ湖を抱えている。気候的には、11月から4月の「乾季」とモンスーンの「雨季」に分かれ、流域の生活と農業は何世紀もの間この気候とメコン河の流れに合わせて営なまってきた。しかし1980年以降急速に解放経済が行われダム、道路、大型観光開発など巨大インフラ建設計画がすすめられている。

日本が開発に関わったのは、50年代の戦後補償からで、長期開発調査の後、タイのナムブンダム、ラオスのナムグムダムなどの建設に大きな役割を果たした。流域5ヶ国にとって、日本は最大援助供与国であり、日本が最大出資国であるADB（アジア開発銀行）の大メコン圏地域経済協力など、この地域での日本の影響力は大きい。

9月に開催された『自然は誰のものか／「開発」に脅かされるメコン河流域の自然資源と人々』の国際シンポジウムでは、ダム計画により、土地所有権のない数千人の人々の移住、広範な森林の伐採、流量の急増、それに伴う生態系の変化や洪水の多発、また豊かな魚種と漁獲量を誇っていた漁業は深刻な状況にあると報告された。

今回の洪水の原因も多くの人が森林伐採によると口をそろえる。国連の機関は森林伐採こそが大打撃を与えた洪水の原因であると述べた。アジア諸国では、森林は1995年から25%、1945年からは70%減少し、都市化が進んでいる。



もともとこの地域の人々は「洪水と共に生きる」として、増水を見越して田植えをし、洪水が土の養分を運び、洪水ができる池が漁業資源になるなど自然環境に順応した地域共同体を形成してきた。開発が進むことで、そこに住む人々の生活は脅かされ、共同体の崩壊につながっている。

今、メコン河流域には50ヶ所ものダムが計画されている。

メコン河を一国の利益や先進国の「開発」概念で捉えることなく、流域全体をひとつの大きな地域と考える開発の見直しが必要であり、それは流域で生きる人々のための開発でなければならない。

最大開発援助国である私たちには、開発は本当は誰のためのものなのか。開発によって潤うのは誰なのか、私たち自身に問い合わせる必要がある。

メコン河流域の情報は次のWeb siteへ

「メコン・ウォッチ」

<http://www.path.ne.jp/~mekong-w/>

「るしな・こみゅにけーしょん・やぼねしあ」

<http://lcj.press.ne.jp/index.shtml>



ようこそ 地球の木へ！ 海外NGOの来訪

ラオスの竹のおひつ

ラオスNGO「PADET」（参加型開発トレーニングセンター） 所長 ソンバット・ソンポンさん

「日本は車だけを作っている国かと思ったら、こんな市民活動をしている人がいるんですね！」

生産者と組合員が顔の見える関係を築きながら活動している生活クラブ生協や、市民を中心となって行っている地球の木の国際協力について聞いた後のソンバットさんの感想です。

現在ラオス政府は経済開発を進めており、国外から多くの生活物資が入って来るようになってきました。3人以上で会合をするには必ず行政の許可が必要になるというこの共産主義国家でソンバットさんはNGOを作り、持続可能な農業のトレーニングや、若い世代に伝統的な食生活を伝えるなど、多面的な活動を行っています。これからは国内の生産者と消費者を結ぶ新しい事業を模索中です。

事務局を訪れた海外NGOのスタッフと話していると、多くの共通点を発見して互いに元気づけられます。

韓国NGO「參與連帯」

事務局長 朴 元淳さん

「日本の消費者運動に学ぶべき点はたくさんあります。一般市民一人ひとりが生活の中で実践していくことで社会を変えていくという視点は新鮮ですね」現在1万人の会員を持つ參與連帯は、透明性の高い社会を実現するため、政府に対しての提言活動を行っています。今年4月の総選挙で、反人権・反民主主義的経験の候補者を落選させる運動は躍進有名になりました。朴さんは、日本の市民運動取材のため来日しました。參與連帯の中で消費者運動を始める構えがあるそうです。

INFORMATION

開発教育セミナー・かながわ ～教室と世界をつなぐ～

開発教育を広め、総合の学習に生かしていくためにセミナーを開きます。

日 時 2001年1月13日(土)・14日(日)

場 所 ウィリング横浜(地下鉄・京急 上大岡)

参加費 無料

申込・問い合わせ 地球の木事務局

内 容 13日 講演「開発教育と総合学習」
報告「生きた総合学習—フィリピンの現場から」

14日 ワークショップ「新・貿易ゲーム」
多文化共生をテーマにした模擬授業
セミナー「南から見た開発・開発教育」
参加型学習手法で作る総合学習／他

主 催 開発教育セミナー・かながわ実行委員会

フィリピン青少年スタディツアーアー 知ることは考える力

期 間 2001年3月25日(日)～31日(土)

訪 問 先 フィリピンネグロス島

参 加 費用 188,000円

募 集 人 数 10名

対 象 16歳以上の青少年

説 明 会 2001年2月10日(土) オルタ館

ネパールスタディツアーアー 教育の原点を探しに行こう！

期 間 2001年3月25日(日)～4月2日(月)

訪 問 先 カトマンドゥ・極西部カイラリ郡(予定)

参 加 費用 230,000円

募 集 人 数 10名

説 明 会 2001年2月10日(土) オルタ館

グローバリゼーション基礎講座 ～世界を知り、自分を見つめる～

私たちの生活は世界どのように関わっているのでしょうか。世界の環境や貿易、人権などの問題について学びます。

日 時 2001年2月3日(土)・17日(土)・24日(土)

場 所 (財)横浜市国際交流協会 JR根岸線関内駅

講 師 田中優氏(国際問題評論家)

村井吉敬氏(上智大学教授)他

参 加 費 3回講座 各回1,000円

共 催 地球の木／(財)横浜市国際交流協会

KOREAこどもキャンペーン 募金受付中！

北朝鮮黄海北道銀波郡にある協同農場の子どもたちへ、今年も食糧を届けますので募金のご協力をお願いします。

郵便振込：加入者名「地球の木」キャンペーン
口座番号：00260-5-14129

ボランティア募集

- 税理士の資格のある方
- パソコンのメンテナンスができる方
- イベントのお手伝いができる方

■開発教育セミナー(1月13日、14日)
■連続基礎講座(2月3日、17日、24日)



事務局よりお願い ●転居される場合は新しいご住所を必ずご連絡下さい。 ●会費の自動引き落としをご希望の方はご連絡下さい。

本紙は古紙配合率100%の再生紙を使用しています。